

再生プラスチック集約拠点構想（日本初の動静脈連携/「循環経済への移行」へ）

～地域循環共生圏（日本初の脱炭素化・SDGs構想）をベースとした再生プラスチック市場構築に向けた拠点構想～

我が国独自の「静脈産業構造」 × 我が国が強みを有する「装置産業・化学産業」 × 我が国が世界に誇る「ものづくり産業」 = 再生プラスチック市場構築

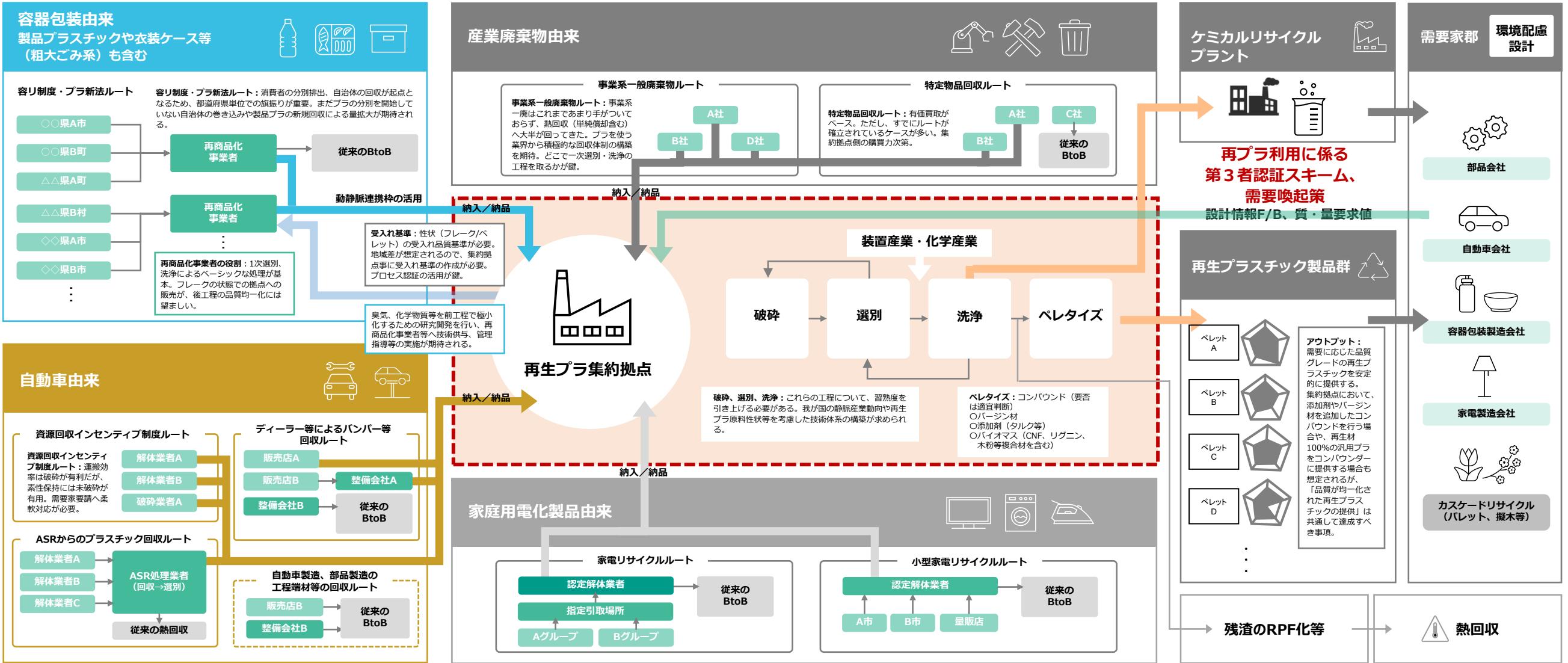
分別排出/回収、リサイクル 選別・洗浄・混練・機能付与 DfE、易解体、品質基準

- ・ 高い国民意識による分別排出、地域に根差した回収ネットワーク及びリサイクラーこれら我が国独自の静脈産業構造を強みとして活かす。
- ・ 高い競争力を持つ装置産業や化学産業等の技術、ノウハウを国内循環産業向けに再構築する。
- ・ グローバルビジネスを牽引する我が国ものづくり産業への再生プラスチックを供給し、国際競争力を維持・向上させる。

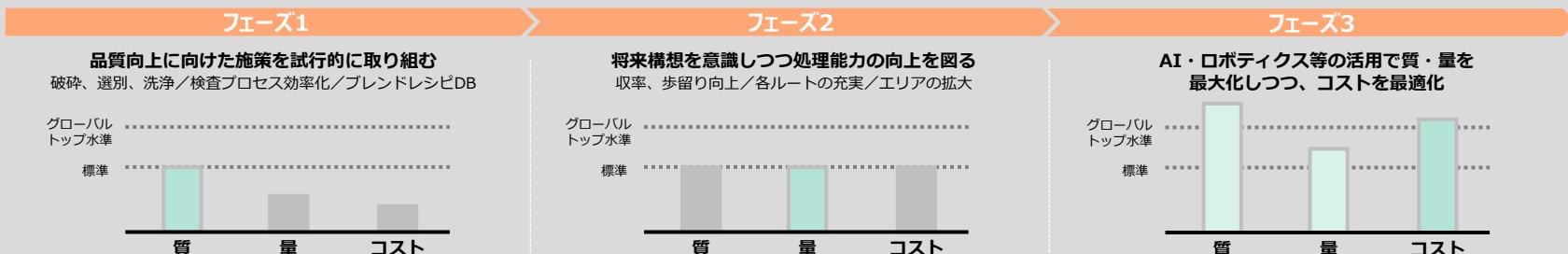
再生プラスチックの既存のサプライチェーンを束ねて、集約し、大量生産に耐えうる供給能力、高品質・均一化を実現する品質管理能力を実装

日本初の動静脈連携産業=循環産業を興し、静脈産業のさらなる発展及びものづくり産業のグローバルな競争力の維持・向上を図る

循環経済への移行



再生プラ集約拠点の最適化に向けたプロセスイメージ



- ✓ 各ルートへの受入基準とグレード別価格を設定して安定化させる。全数検査は現実的ではないためプロセス認証などを活用。
- ✓ 原料由来のトレーサビリティ管理を徹底し、懸念物質・臭気・物性の管理に活用。
- ✓ 異なる原料由来をブレンドし再生プラスチックとして均一化しペレタイズ or 原料別グレーディングでペレタイズ（関係者・状況で判断）。
- ✓ 受入後は均一化のため破碎・選別・洗浄を徹底。同一ライン運用が効率的。
- ✓ 品質・物性検査はロット毎に実施し、生産ラインへ組み込み等の工夫で工程短縮。
- ✓ 最終製品向けコンパウンドが理想だが、多様な需要に柔軟対応が必要。
- ✓ 資本・技術・人材を備えた企業/複合体が集約拠点を担うことが求められる。